

本誌の表紙に使われた貴重書	2
ライブラリー・スケッチ	西村 玲奈 3
最新 Up-to-date な本	4

研究者と図書館

学生時代と図書館 82 「一私の師匠、図書館一」	河上 幸子 5
佛蘭西書巡覧24	平山 弓月 6
世界をみつめて 4 「言葉と平和」	莊中 孝之 7
中国のほんの話 (59) 「文豪と漢詩(其の壺) ～佐藤春夫『車塵集』、『玉笛譜』～」	蔭山 達弥 8

OFFICE INFORMATION

オフィス・インフォメーション	9～11
本学図書館のスペシャル・コレクションより ニッポナリアと対外交渉史料の魅力(33)	
「ウィリアム・E・グリフィスと代表作『皇国』のはなし」	奥 正敬 12～13
寄贈図書案内	14
フォーラム実行委員会報告	栄 咲子 15
「生き方探究・チャレンジ体験」に参加して	16～17
迎春 冬の図書館を詠む	18

本誌の表紙に使われた貴重書

KIMURA, Shotaro ; PEAKE, Charlotte M. A.
Sword & Blossom Poems from the Japanese
 3 vols. Tokyo, 1909～1910

木村正太郎、シャーロット・M. A. ピーク『詩集 刀と花』 全3巻



全三巻からなる本書は、それぞれが長方形の厚紙を縮緬紙で包んだ表紙と背表紙、さらに裏表紙まで連なる現代的な製本がなされている。表紙の絵は第一巻が水のうねりと桜の花、第二巻は海面を飛ぶ千鳥、第三巻は水面に生える沢瀉である。

本文が書かれた頁部分は極めて高級な平紙の和紙を使った袋とじが用いられ、全てが縮緬加工紙で作られているわけではないが、英語の文字が日本の筆を用いたような書体で印刷され、蕉窓、芳宗、華邨ら絵師たちの作品と見事に調和した美しい出来映えの本である。

内容は、三つの巻を通して「花の歌」として花や自然を詠った和歌、「刀の歌」として武士の心や戦の模様を詠んだ漢詩などが収録されている。第三巻に限りこれらに加え「恋の歌」も集められている。それぞれの巻の序文で述べているように、「花」の和歌は『古今和歌集』から、「刀」は近年にまで及び武士の漢詩などから採っているが、第三巻の「花」は『古今和歌集』に限らず江戸時代の詩なども織り交ぜている。「花」は全体的に紀貫之の和歌が多いことが目を惹くが、他にも紀友則、僧正遍昭、清原深養父などの歌に交じり詠み人知らずのものも含まれている。特に第三巻の「恋」では殆どが詠み人知らずの儂い歌である。

なお、本学図書館ではマンフレッド・シュナイダー(Manfred Schneider)によってドイツ語に翻訳され、同じ体裁で大正3(1914)年に出版されたドイツ語版第一巻も所蔵している。

原寸 18×12.3cm

『文明開化期のちりめん本と浮世絵』(2007年本学図書館刊行)より抜粋